わかば学級１・２組　特別の教科　道徳学習指導案

令和８年１１月２０日（金）　第５校時　わかば２組教室　Ｔ１　松本みゆき

Ｔ２　勝山　裕介

支援員　笠舞　康子

１　主題名　　れいぎただしい　ことは（B礼儀）

（教材名：どちらが　いいかな　出典：いきるちから１年【日本文教出版】）

２　目　標

児童ＢＤ	挨拶や気持ちのよいふるまいをしようという気持ちをもつことができる。
児童ＡＣＧ	相手も自分も気持ちよく過ごすために、挨拶や気持ちのよいふるまいをしようという気持ちをもつことができる。
児童ＥＦ	気持ちのよい挨拶は、自分の気持ちを相手に届けていることに気付き、相手も自分も気持ちよく過ごすために、挨拶や気持ちのよいふるまいをしようという気持ちをもつことができる。
児童ＨＩ	気持ちのよい挨拶は、相手を大切に思っている心を届けるものだと気付き、相手も自分も気持ちよく過ごすために、挨拶や気持ちのよいふるまいをしようという気持ちをもつことができる。

３　授業計画

【ねらいとする道徳的価値について】

挨拶や気持ちのよいふるまいには、「一緒にがんばろう」「すがすがしく気持ちがいいな」「とても心強いな」など、相手にも自分にも、周りの人たちにも大きな力を与えてくれるパワーがある。また礼儀は、今、周りにいる人だけでなく、将来、進学や就職で新しい人間関係を築く際にも、人と人との心をつなぎ、互いに気持ちよく生活するための基盤となる。気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などを心がけて、明るく接しようとする心情を育てたい。中学進学を控えた児童ＨとＩには、言われるから、やるものだからやるのではなく、礼儀は相手を大切に思う心を伝えるもので、心と形の両方が伴ってこそ心のこもった礼儀となることも自覚できるようにしたい。

【学習前の児童の姿】

本学級の児童は、学校生活の中で、授業初めと終わりの挨拶や、職員室や保健室、配膳室等への入退室の挨拶を日々経験している。相手に体を向け、自分の体を止めて、よい姿勢で元気に挨拶するように声をかけてきたが、言われたからやるという、他律的な言動が見られ、児童Ａ，Ｂ，Ｃ，Ｄ，Ｆは練習中である。また、児童ＥとＧは、挨拶の必要性や意味を十分に理解して行っているとは言えず、教師の声掛けによって形として行っている。校内で地域の方やお客さんに出会う場面でも、自ら挨拶をしようという意識が薄く、教師の声掛けがないと挨拶できないことが多い。相手や周りの人がどんな思いでいるかを想像することはできていないだろう。

気持ちのよい挨拶は自分も相手も周りの人も、みんなにとって気持ちのよいものであることを自覚することで、校内はもちろん、学校以外の生活の中でも、気持ちのよい挨拶ができるようにしたい。

〈教材のこんな魅力〉【１時間完了】

・本教材は、礼儀正しいときとそうでないときを比較して、それに関係する人（自分・相手・周りの人）の気持ちの違いを考える内容であるが、児童ＨとＩにも深く考える機会がもてるように、礼儀正しくない態度だけを見てから、どう行動するのが良いか考えさせる。相手も自分も気持ちよく過ごすために大切なことを考えることで、自他ともに気持ちよく過ごすことのできる挨拶やふるまいをしようとする実践意欲を育てることができる。
・児童ＨとＩには、相手がどう感じるかを考えることで、心のこもった礼儀についても感じることができる。

〈こんな手だてで〉

・導入に二択の質問をすることで、全員がどちらかを選び、参加する土台にする。
・どうするとよいのかを考えた後、実際に一人ずつやってみることで、気持ちのよい挨拶は相手も自分も周りの人も気持ちよいことを自覚する。
・気持ちを言葉で表現することが苦手な児童には「うれしい」「いや」の札を渡して、思いを表現しやすいようにする。
・振り返りでは気持ちのよい挨拶をするとどんないいことがあるのか確認する。

【学習後の児童に期待する姿】

・相手も自分も気持ちよく過ごせる言動を行おうとしている。
・相手を大切に思う心と形を合わせた言動を行おうとしている。（児童ＨとＩ）

４　本時の指導

（1）指導の構想

まず、挨拶をしたり礼儀正しくしたりすると、いいことがあるかを問う。2択にすることで全員がどちらかを選び、授業に参加する土台としたい。挨拶をするといいことがあるのだな、でもどんないいことがあるのかなと疑問をもったところで、「どんないいことがあるのかを考えてみよう」とめあてを立てる。学校でお客さんに出会った場面では、お客さんと、子どもと、それを見ていた人がどんな気持ちかを考える。普段の様子から、何がよくなかったのか気付かないこともあるかもしれない。その場合は、初めに目が合ったことに着目させてから、教師がやって見せることで気付かせたい。その後、どうするとよかったのか、気持ちのよい挨拶をするとそれぞれがどんな気持ちになるのかを話し合う。後半では、実際にやってみる時間を取る。本時では、教室にお客さんが多くいるので、一人ずつ礼儀正しい挨拶をしてみて、気持ちを味わう。体験して気持ちよさを自覚することがねらいだが、習得するための練習という側面も期待できるだろう。また、児童に挨拶をされたお客さんと、それを見ていた周りのお客さんに気持ちを尋ねた結果、「うれしい」カードがたくさん挙がる一幕も、味わわせたい。さらに、児童HとＩには、「今どんな気持ちを込めて『こんにちは』って言ったの。」などと尋ねることによって、相手を大切に思う心と形を合わせたものが礼儀だということまで考えを深められるようにしたい。

振り返りでは改めて、どんないいことがあるのかを尋ね、気持ちのよい挨拶は自分も相手も周りの人もよい気持ちになることに気付くことができるようにしたい。

（2）準　備　　（教師）場面絵、プリント、「うれしい・いや」の札

（3）学習過程

次ページ

（4）評　価

児童ＢＤ	気持ちのよい挨拶やふるまいをしようと考えることができたか。
児童ＡＣＧ	相手も自分も気持ちよく過ごすためにはどうするとよいかを考え、挨拶や気持ちのよいふるまいを意識しようという気持ちを表現しようとしているか。
児童ＥＦ	気持ちのよい挨拶は、自分の気持ちを相手に届けているということを考えようとし、相手も自分も気持ちよく過ごすためにはどうするとよいかを考え、挨拶や気持ちのよいふるまいを意識しようという気持ちを表現しようとしているか。
児童ＨＩ	相手がどんな気持ちになるのかを体感しながら、気持ちのよい挨拶は相手を大切に思っている心を届けるものであることなどを考え、相手も自分も周りの人も気持ちよく過ごすためにはどうするとよいかを考え、挨拶や気持ちのよいふるまいをしようという気持ちを表現しようとしているか。

（3）学習過程

<table>
<tr><td>学習活動（時間）</td><td colspan="5">・予想される児童の反応　　支：支援員による支援</td><td colspan="2">※教師の支援</td></tr>
<tr><td rowspan="4">１　挨拶にはいいことがあるのか、それはどんなことか疑問をもつ。
（5）</td><td>児童Ｂ</td><td>児童Ｄ</td><td>児童ＡＣＧ</td><td>児童ＥＦ</td><td>児童ＨＩ</td><td>Ｔ１</td><td>Ｔ２</td></tr>
<tr><td>支：椅子に座って話が聞けるように、右後ろに寄り添う。授業の流れを話してやることを伝える。</td><td colspan="4">挨拶をすると、いいことはあるのかな</td><td rowspan="2">※授業の流れを黒板に書いて、見て分かるようにする。
※できるだけ全員が意見をもてるように、一人ひとり尋ねる。
※「ある」と答えた児童にはどんないいことがあるのかを尋ねて授業前の実態を板書する。</td><td rowspan="2">※授業時間が目で見て分かるように、タイムタイマーをかける。
※挨拶や礼儀正しい行動の例をイラストや写真で示し、イメージしやすくする。
※日本語に難があり動きがちな児童ＤにＴ２が寄り添う。Ｔ１の指示を繰り返し伝えながら、活動に興味が向くようにする。</td></tr>
<tr><td>支：Ｔ１の指示を繰り返し伝えながら、活動に興味が向くようにする。
・ある。</td><td>・ある。</td><td>・ない。</td><td>・ある。挨拶はやる気になる。</td><td>・ある。</td></tr>
<tr><td colspan="5">めあて　挨拶をすると、どんないいことがあるのかな</td></tr>
<tr><td rowspan="4">２　学校でお客さんに出会った場面について聴き、自分と相手と周りの人がどんな気持ちなのか考える。
（１２）</td><td colspan="5">自分と相手と周りの人はどんな気持ちかな</td><td rowspan="4">※お客さんとすれ違っても何も言わない場面絵を紙芝居のように見せる。また、Ｔ１とＴ２で実演して、状況をつかめるようにする。
※どんな挨拶がよいかな、こんな挨拶でよいかな、とやって見せながら尋ねて視線や体の向き等にも意識が向けられるようにする。</td><td rowspan="4">※何も言わないですれ違う場面を実演する。
※児童Ｄのプリントを指さしながら、場面を解説し、児童Ｄがどう感じているのかを読み取る。
※学習中、児童Ｂ、Ｄが動きたそうなときは、トランポリンで体を動かすことを認め、後半で参加意欲が高められるようにする。その際は時間を３分と区切る。児童Ｃも必要があれば同様に支援する。トランポリンの前でシューズを脱いだ後そろえるように声をかける。</td></tr>
<tr><td>支：プリントを指さしながら場面をつかめるように声をかける。「うれしい」「いや」の札が使えそうなら促す。</td><td>・（気持ちのカードを選んで）悲しい。</td><td>・もやもやすると思う。</td><td>・無視されて嫌だなあ。</td><td>・周りの人もいい気持ちはしない。</td></tr>
<tr><td colspan="5">どうしたらよかったかな　そうするとみんなはどんな気持ちになるかな</td></tr>
<tr><td>・（「うれしい」札を挙げる）</td><td>・「おはようございます」
・（気持ちのカードを選んで）うれしい。</td><td>・挨拶をする。
・気持ちがいい。</td><td>・大きな声であいさつをする。
・今日はいい日だなあ。</td><td>・目を見て言えるといい。
・すっきりした気持ちになる。</td></tr>
</table>

3　礼儀正しく挨拶をして、どんな気持ちになるかを自覚する。 （２０）	みんなが考えた挨拶をやってみたら、自分と相手と周りの人はどんな気持ちになるかな					※やり方が分かるように、初めはやって見せる。 ※一度に行わず順番に行うことで、挨拶の様子や表情に気付けるようにする。 ※深く考えられる児童には、どんな気持ちをこめて挨拶をしたのか尋ね、挨拶は心を届けていることに気付けるようにする。 ※児童が挨拶をするお客さん３人とそれを見ている周りのお客さん２人に「うれしい」「いや」のどちらの気持ちに近いか札をあげてもらい、相手や周りの人の気持ちが見て分かるようにする。	※やることが分かっていない児童がいたら、Ｔ１の発問を個別に伝え、考えられるようにする。
	支：他の児童が挨拶している様子に注目できるように、声をかける。 ＜挨拶する＞ ・(「うれしい」札を挙げる)	＜挨拶する＞ ・うれしい。	・見ていて気持ちがよくなった。 ＜挨拶する＞ ・お客さんが笑顔になってうれしかった。 ・うわあ、みんな「うれしい」だ。 ・喜んでもらえた。うれしい。	＜(大きな声で)挨拶する＞ ・緊張したけど、お互い笑顔になった。 ・元気なのが伝わってきた。 ・目を合わせているのが、よかった。気持ちが届いている感じがした。 ・「うれしい」ばっかりだ。	・お客さんが笑顔になった。 ・元気な声がよかった。お客さんの挨拶も元気な声になった。 ＜（視線を合わせて）挨拶する＞ ・気持ちよかった。互いに温かい気持ちになった。 ・頭をしっかり下げたのは、緑丘小学校へようこそという気持ちをこめた。 ・やった。		
4　めあてについて改めて考えて振り返る。 （8）	挨拶をすると、どんないいことがあるかな					※発問に対する答えを言うのが難しい児童には、板書した言葉から選択肢を示し、少しでも考えられるようにする。 ※授業前の板書と比較し、学びを実感できるように声をかける。 ※授業の終わりの挨拶も挨拶チャンスであることを伝え、気持ちのよい挨拶で終える。	※姿勢が崩れた児童がいれば声をかけ、よい姿勢の児童を認める。
	・うれしい。	・気持ちがいい。	・みんなハッピーになる。	・元気な挨拶は、自分も相手も周りの人も気持ちよくなる。	・気持ちをこめて挨拶をすると、自分も相手も周りの人もいい気持ちになって、みんな笑顔になる。		